

【評価実施概要】

事業所番号	0572210110
法人名	有限会社 湯の里
事業所名	グループホーム茜
所在地	秋田県山本郡三種町森岳字街道東222-6 (電話) 0185-83-2370
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤 5 丁目 1 番地の 1
訪問調査日	平成 20年 11月 12日

【情報提供票より】( 20年 10月 20日事業所記入)

( 1 ) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算7.5人	

( 2 ) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1 階建ての	1 階部分

( 3 ) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

( 4 ) 利用者の概要( 10月 20日現在 )

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護 1	2名	要介護 2	3名		
要介護 3	2名	要介護 4	2名		
要介護 5	0名	要支援 2	0名		
年齢	平均 82.2 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

( 5 ) 協力医療機関

協力医療機関名	森岳温泉病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地に位置しながらも近くには果樹園、畑、山林等があり、散歩の折には四季の移り変わりが感じられる自然に恵まれたホームであり、外出支援を積極的に行っている。また、入居者一人ひとりの嗜好や生活歴等もよく把握し、きめ細やかなサービスを提供している。  
同法人内に数箇所あるホームの中では一番新しく、他のホームのノウハウを活かして暮らしやすい居住環境が作られている。また、法人内での合同研修なども自ら企画・実施しながら、経営者と職員間の交流も図る等、優れた実践とそれを支える職場環境が整っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は、外部評価をホームの運営状況を広く知ってもらう機会として捉えており、評価の意義を理解している。前回の評価結果についても、職場内で意思疎通を図りながら改善に努めているが、入居者本人やご家族の希望が反映されるようなアセスメント表の様式について、更なる工夫が期待される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を導き出すプロセスとして、全ての職員でチェックを行った上で検討を加えている。今回の自己評価においては、改善すべき内容としてチェックされた項目は無かったが、日頃の実践において業務の振り返りや改善活動が行われている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>地域の協力者や行政職員、民生委員の他、ご家族にも参加を働きかけ、相互のコミュニケーションが促進されるよう、議題設定や進行に配慮している。更に、協議された内容を実際のサービスに反映できるよう努めている。また、市町村担当者とのコミュニケーションを重視しており、助言を受けながらホームの要望も伝え、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月の利用料請求に併せて、ご家族にホームでの様子を写真と手紙を添えて伝えている。金銭管理の状況についても毎月拳証書類とともにご家族に対して確実に報告している。家族会が構成されており、ご家族がホームへの意見を表出する場を設け、その意見を大切にしながらサービス提供を行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>経営者が地元の方ということもあり、地域との密接なつながりの中で孤立せずにホームを運営している。特に入居者の散歩は近隣の方と日常的に交流できる良い機会となっており、優れた実践である。また、消防計画における地域の協力も密接であり、緊急避難誘導時の協力者を確保している。</p>

## 2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	3つの企業理念のほか、ホーム内にわかりやすいスローガンを掲示している。職員のみならず入居者やご家族に対しても、自分らしく暮らすことの大切さを伝えるメッセージとして機能している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	経営者や管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にしている。グループホームの理念の実現に向けて、コミュニケーションを通じ組織全体で取り組んでいる。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	経営者が地元の方ということもあり、地域との密接なつながりの中で孤立せずにホームを運営している。特に入居者の散歩は近隣の方と日常的に交流できる良い機会となっており、優れた実践である。消防計画における地域との協力も密接である。		
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現場職員は外部評価を、ホームの運営状況を広く知ってもらう機会として捉えており、評価の意義を理解している。また、自己評価を職員全員で行っており、評価の意義を各職員が理解している。評価を活かした業務の改善にも意欲的に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は年2回開催されている。地域の協力者や行政職員、民生委員のほか、ご家族の参加も促しながら、コミュニケーションが促進されるよう議題設定や進行に配慮している。協議された意見については、サービス内容に反映できるよう努めている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域密着型のサービスを行う上で、市町村担当者とのコミュニケーションを重視している。担当者から助言を得ながら、確実にホームの要望も伝え、サービスの質を向上するよう取り組んでいる。</p>		
<p><b>4.理念を实践するための体制</b></p>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の利用料請求に併せて、ご家族に対してホームでの入居者の様子を写真と手紙を添えて伝えている。金銭管理の状況についても、毎月拳証書類とともにご家族に対して確実に報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会が構成されており、ご家族がホームへ意見を表出する場を設けている。また、それらの意見を大切にしながらホーム内の運営に反映させるよう努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>経営者は、職員の異動を最小限に留められるよう、現場の状況の把握に努めていることが確認できた。やむを得ず離職等がある場合も、入居者へのダメージを最小限にできるよう、職員間の意思疎通の機会を持ち、連携を深めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職場外の研修に対する職員の派遣にとどまらず、全ての職員が参加できるように職場内の研修を同法人の他のホームと合同で企画し、実施している。さらに、その場において経営者と現場職員が意思疎通を図っており、ホームの優れた実践を支えている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会に加入し、同業者との情報交換に努めている。また、法人内にはグループホームが5箇所あり、相互に連携しながらサービスの質を向上していくため、5ホーム合同での会議を毎月開催している。特に、運営者の積極的な参画の姿勢がみられる。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>今までの生活歴を把握した上で、利用者の馴染みの物等をホームに持ち込んでもらうよう働きかけている。入居者全員が茶碗、カップ、箸を持参して入居している。また、入居前に親しくしていた方の来訪を大切にしている。</p>		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者とのコミュニケーションを大切にしており、入居者の長い人生経験を通して多くの示唆を得ている。その中で、入居者と職員が共に支えあう土台が築かれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員はマンツーマンでのコミュニケーションを図っており、一人ひとりの思いを大切にしている。特に入浴時(1対1で介助)や夜勤帯で入居者とじっくり話すことが多い。</p>		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者個別の特徴や意向は確実に把握できているが、アセスメント表への反映が必ずしも十分でなく、介護計画にもつながりにくい状況にある。</p>		<p>アセスメント表で本人・ご家族の希望をチェックできるよう、様式を工夫することが期待される。その中でケアプランがより個別性の高いものとなり、ケアの具体的な指針となってサービスの標準化や質の向上につながっていくことが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>要介護認定の更新時の見直しのほか、入居者の状況の変化に応じて、随時計画の見直しを行っていることが確認できた。</p>		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>現時点では特に多機能性を活かして対応した事例はない。しかしご家族の宿泊、設備の使用等も含めて、事業所の機能を柔軟に提供できるよう考えている。また、ホームへの訪問が難しいご家族については、事業所から訪問することも検討中である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、入居前のかかりつけ医をそのまま継続できるよう努めている。その中で一人ひとりに合った医療サービスが提供できるよう適切に支援している。通院の対応もホーム職員が行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	訪問看護ステーションと医療連携体制に関わる提携を結んでおり、運営方針としても看取りに対応することができるよう体制を整備しつつある。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室入口の小窓は一部透明になっており、職員がドアを開けずとも安全確認できるようになっているが、その上を暖簾で覆うことでプライバシーに配慮している。個人情報の取扱についても、職員から誓約書を取るなどして適切に管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に入居者を合わせることの無いよう、入居者のペースに合わせて職員が動いている。服装の好みの把握状況、食事のペースに合わせた対応等、具体的な場面からこのことが確認できた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食事の嗜好、能力、ペース等を把握している。職員は、会話・見守り・介助・準備・配膳・下膳等、食事に関わる様々な場面で入居者と一緒に家事を行っていることが確認できた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1対1で入浴支援を行っており、週3回の入浴機会を確保している。入居者個人のペースにあわせ、職員との会話を楽しみながらゆったりと入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は一人ひとりの生活歴と能力を把握しており、調理や農作業等、それぞれの入居者に応じた役割を持って過ごすように配慮しながら、共に活動している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩とドライブを意識的に多く設定しており、希望に応じて外出できる体制を敷いている。ホームの近隣は四季の移り変わりが感じられ、散歩を楽しめる環境であり、入居者の写真の表情からも生き生きとした様子が伝わってくる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	リビング窓は大きな掃きだし窓で、簡単にテラスに出ることができる。玄関も施錠されていない。玄関にはセンサーを設置しているが、職員が見守りできる状況であれば夜間でもセンサーに頼らず対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>近隣の住民に直接戸別訪問し、了解を得ることで災害時の避難における協力体制を築いている。実際の訓練でも、地域住民の協力を得ながら実施している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>摂取量、提供量、栄養バランス等について、栄養士に定期的にチェックしてもらうシステムを構築している。また、入居者個人の嗜好もよく把握できている。</p>		
<b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>同法人5箇所ของกลุ่มホームの中で最後に建設されたホームであり、以前に建てられたホームのノウハウを活かした優れた建物となっている。共用空間は、入居者の生活の場として居心地よく過ごせるように配慮されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内はベッドと造り付けの家具が設置されている。そのほか、使い慣れたものを持参できるよう入居時に働きかけている。ベッドで使用する布団も、自宅から使い慣れたものを持参できるようにしている。</p>		

は、重点項目。